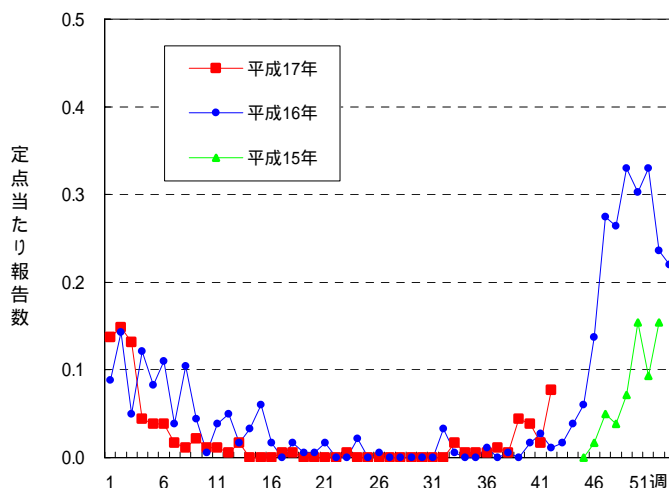


## 流行状況

### これから注意する感染症

R S ウイルス感染症は、9 保健所(市)から 14 例(定点当たり 0.08)の発生報告があった。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の約 79%を占めている。

### R S ウイルス感染症



R S ウイルス感染症について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/rs.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

予防接種法に関する政省令の改正について (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/2005reg.html>)

予防接種スケジュール (<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule.html>)

麻しん・風しんの予防接種方法が変わります ([http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi\\_3.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_3.html))

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

## 定点コメント(名古屋市除く)

### 尾張西部地区

3 歳男 サルモネラ O7 単発 二次感染なし。

【一宮市 医療法人さかたこどもクリニック】

病原性大腸菌 O1 3 歳女

マイコプラズマ肺炎 6 名

【一宮市 城後小児科】

ヘルパンギーナが 1 例ありました。

水痘が流行しています。

急性細気管支炎が目立ちます。

【犬山市 武内医院】

ムンプス、水痘が散発

アデノ陽性の感染性胃腸炎あり。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

流行性耳下腺炎の流行が続いています。

気管支喘息、喘息様気管支炎も多くみられています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

51 歳男 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

## 尾張東部地区

マイコプラズマ感染、手足口病が少しみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナがまだありました。

今週も溶連菌感染症ありました。

その他、水痘、流行性耳下腺炎、突発疹等、散発

少し風邪が増えてきました。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

6歳男 カンピロバクター感染症腸炎 1名

【豊明市 豊明団地診療所】

アデノウイルス感染症が続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

胃腸かぜ増加

手足口病があります。

プール熱少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ウイルス性胃腸炎が増加。ロタは陰性。

【小牧市 小牧市民病院】

4歳男ですが、水痘予防接種済みの子がかりました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

特に流行はありません。

【半田市 おっかわこどもクリニック】

## 西三河地区

3歳男、4歳男 strepA (+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

病原性大腸菌O1 9か月男

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】

4歳男 サルモネラO4 (+)

10か月女 病原性大腸菌O1(+ )VT(- )

【岡崎市 にいのみ小児科】

1歳男、9歳女 病原大腸菌O1

7歳男 カンピロバクター

3歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

手足口病散発

【永井小児科クリニック】

カンピロバクター6歳女

【西尾市 やすい小児科】

5歳女 マイコプラズマ肺炎

【幸田町 とみた小児科】

## 東三河地区

川崎病2人入院あり。

11歳男 サルモネラO9 腸炎

喘息児多いです。

【豊川市 豊川市民病院】

RS感染症1名入院(今期初)

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

病原性大腸菌O159 6歳男

【豊川市 ささき小児科】

## 一～三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

<関連リンク>

([http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2\\_4](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4))

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	西尾	6	女	10/8	10/19	10/20	O157 VT(+)
*	豊田市	25	女	9/26	9/28	10/7	O157 VT1(+) VT2(+) 41週の追加報告

発生報告なし

**感染症だより（10月前半）**

平成17年10月27日

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

会議室から外に出て、暗くなっているのに驚いたりします。日が短くなりました。いつも貴重な情報を有難うございます。10月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは気管支炎・肺炎などの下気道ウイルス感染症とクループ症候群が多くなりマイコプラズマ感染症が明らかに増加、入院例では重症の喘息様気管支炎やクループ症候群、マイコプラズマを含む肺炎の入院が主体で乳児の細気管支炎が増加傾向で咽頭結膜熱は激減、城北病院渡辺先生からは3歳以下の喘息様気管支炎の中でRSウイルス陽性者が少し増加している感あり、相変わらずマイコプラズマ気管支炎・肺炎が散見され、アデノ陽性の胃腸炎患者あり、今後増加（？）感染がらみの喘息患者でコントロール出来ず入院する例が多い、第二日赤岩佐先生からはRSウイルス感染の細気管支炎の入院例あり、千種区今枝先生からは目立つ感染症なし、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎2名（黄色ブ菌、病原性大腸菌O1）、突発性発疹1名、マイコプラズマ性2名を含む急性気管支炎・肺炎の入院5名（兄弟例あり）、気管支炎を合併した気管支喘息の入院数例、中京病院柴田先生からはRSウイルス陽性の下気道感染症増加、大同病院水野先生からはマイコプラズマ肺炎が相変わらず増加、RS陽性者の乳児に在るが圧倒的にマイコプラズマが多く入院激増、マイコプラズマ感染に伴った喘息の悪化例が多く消化器症状を伴う例があり、肝機能障害を呈した例1名、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎散発、感染性胃腸炎散発、江南市昭和病院小児科からはRSウイルス感染症とムンプス髄膜炎の入院が目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス、水痘、ウイルス性胃腸炎、感染性胃腸炎の入院、手足口病、インフルエンザ桿菌、肺炎球菌による肺炎の入院あり、ウイルス性脳炎の入院1例あり、市立半田病院中島先生からは喘息が増えていて要入院例増加、クループ症候群が少し多い目とのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは喘息発作が目立ち要入院例も多い、刈谷市田和先生からはムンプスと水痘がたまにみられた、碧南市永井先生からはムンプスが目立ち、手足口病が時々あり、豊橋市宮澤先生からは少数のムンプス、手足口病あり、とのお手紙をいただきました。有難うございました。

2005 年 10 月 7 日（80 巻 40 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8040/en/>

鳥インフルエンザ。インドネシア：05 年 9 月 29 日、同国保健省が A（H5N1）型人感染新規死亡例を発表。27 歳女性。ジャカルタ居住。香港の WHO 標準検査室で確認された。発病直前に病鶏と接触あり。この例で同国の確定例は 4 例（死亡 3）。サーベイランス強化のために感染疑い例は国立検査室で検査実施。国連食料農業機構（FAO）によれば同国では H5N1 強毒株が全国各地の養鶏場で多発中で流行が予測される雨期（11 月～翌年 4 月）を前に監視強化。

ポリオ。インドネシア最新の情報：9 月 30 日新規例 11 名確認。中部ジャワ。累計 25 例。新規発生地区は 5 月 31 日と 6 月 28 日のワクチン緊急一斉接種地区に含まれていなかった。全国的一斉接種は 5 歳以下小児 2440 万人を対象に 8 月 30 日と 9 月 27 日に予定。今回の流行は 1 型野生株。同国では 1995 年以來の流行。

インフルエンザ。06 年南半球流行期（06 年 5 月～10 月）のインフルエンザワクチンの WHO 推薦のウイルス株組合せと 05 年 2～9 月の世界的流行状況のまとめ。この時期、北半球では A（H3N2）主体で中国と香港で重篤で広範な流行があり、B 型はアフリカ、アジア、東欧で発生、A（H1N1）は東欧、アジアの少流行、南半球では A（H3N2）と B 型が発生、B 型がニュージーランド、A（H1N1）が南アフリカで流行した（国別、月別の詳細な一覧表あり）。今回の推薦株の組合せは A / ニューカレドニア / 20 / 99（H1N1）、A / カリフォルニア / 7 / 2004（H3N2）、B / マレーシア / 2506 / 2004 である。

麻疹。麻疹ウイルスの遺伝子型の世界分布：麻疹根絶計画の進捗状況を評価して今後の計画立案には遺伝子型のサーベイランス調査、検索が必須で、国際的な統一された遺伝子型の命名のガイドラインが WHO により 1998 年に示され、以後 01 年、03 年に新しい知見を基に遺伝子型決定の標準化が発表されている。ウイルス分離培養株の RNA や臨床材料の RNA 抽出材料の塩基配列で遺伝子分類が行なわれていて、ウイルスのヌクレオチド（N）の COOH 末端の 150 アミノ酸配列で遺伝子型を決め、新規の型の場合、赤血球凝集素（H）塩基配列を検索して既存の株と系統樹を検討する。ウイルス分離培養には VERO 細胞を利用（株により感度に差がある。WHO は依頼に応じて標準株を供与している）。以下最近の情報である。

新しい遺伝子型と遺伝子型の変化：a) これまでの 14 遺伝子型に新しく D14 型がウガンダの流行ウイルスで追加された。東アフリカの近隣諸国では分離されていない。最も近縁の D2 型と N 遺伝子の配列で 3.1%、H 遺伝子で 2.6% のずれが認められている。b) 1980 年代にガボンで流行、その後消滅したと思われていた B2 型が最近アフリカ諸国で分離されている。サーベイランス網の改善で隠れていた流行株が検出されたと推定される（遺伝子型 15 種類の分離材料、標準株の分離地区と時期、遺伝子バンク（米国 CDC 担当）のコード番号の一覧表あり）。

過去 15 年間における分離株の遺伝子型、とくに現在も発生中の地域について国別の詳細な記載と一覧表。膨大なので略。ちなみに日本では D9 型（インドネシアでも分離されている）と H1 型（中国、韓国、モンゴル、ベトナムでも分離）であった。遺伝子登録バンクのアドレス：<http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/revb/measles/index.htm>

過去 25 年間の予防接種普及活動進捗の成果：フランス・リヨンにおけるWHO・ユニセフ合同の世界ワクチン会議の世界全体のまとめ：DPT3 混の 3 回接種完了率は 04 年には 78% を維持。DPT3 混の 3 回接種完了率は 102 カ国で 90%以上、80 カ国で 50~89%、10 カ国が 50%以下。B 肝ワクチン接種は 90 年に 12 カ国だったのが 04 年には 153 カ国に、インフルエンザ桿菌ワクチンは 4 カ国だったのが 92 カ国に増加、DPT3 回が未接種で死の危機に曝されている乳児は 2700 万人と推定される。ワクチンで予防可能な感染症による死亡は 02 年で 210 万人、うち 140 万人は 5 歳以下である。国際予防接種基金設立によるワクチン普及活動と新しいワクチンの開発支援がみこまれる。今後 10 年間で 20 種類の新ワクチン開発が期待される。

9 月 30~10 月 6 日届出。コレラ：ギニアビサウ、モーリタニア、ニジェール、ウガンダ、米合衆国（輸入例）

#### 2005 年 10 月 14 日（80 巻 41 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8041/en/>

インフルエンザ。世界の状況。04 年 9 月~05 年 8 月：この 1 年間で 84 カ国・地区から WHO に報告があった（アフリカ 8 カ国、南北アメリカ 17 カ国、アジア 18 カ国、欧州 37 カ国、オセアニア 4 カ国）。国別、月別の分離株のウイルス型の詳細な一覧表あり。内容は前号のワクチン推奨株に関する記事とほぼ同じなので略。同時期に鳥型 H5N1 の人感染例は 73 例（死亡 28）、現在まで人から人への伝播を示唆する証拠はなく、警戒度は 3 度を維持（[http://www.who.int/csr/resources/publications/influenza/WHO\\_CDS\\_CSR\\_GIP\\_2005\\_5/en/index.html](http://www.who.int/csr/resources/publications/influenza/WHO_CDS_CSR_GIP_2005_5/en/index.html)）

ポリオ。第 11 回世界ポリオ検査室ネットワーク（検査網）審議会。(A)概略 検査網は 04 年 4 月~05 年 6 月に野生株ポリオを 22 カ国で検出、遺伝子解析からアフリカ地区諸国、インドネシア、サウジ、スーダン、イエメンの株はナイジェリア由来、アンゴラの株はインド由来、アフガニスタン、エジプト、インド、ナイジェリア、パキスタンの株はそれぞれの国に常在しているウイルス株であった。ワクチン株由来のポリオ発病が中国（04 年、2 型）、マダガスカル（05 年、2 型と 3 型）、インドネシア（05 年、1 型）で確認された。世界検査網は急性弛緩性麻痺（Acute Flaccid Paralysis, AFP）患者からのウイルス検査材料を 04 年には約 8 万 3 千検体検査し、05 年には約 10 万検体の検査が期待されている。検体数の増加が各国検査センターに重圧となっているが、エジプト（カイロ）、インド（ラクナウ=前々号で紹介しましたようにラクナウのセンターは愛知県衛生研究所と名古屋大学が研修生を受け入れ、現地での技術移転・指導を実施、WHO の標準検査機関として活躍中です=ムンバイ）、ナイジェリア（イバダン）、パキスタン（イスラマバード）、南アフリカ（ヨハネスブルグ）各センターからの報告は定期的で精度良好、センターによっては向上している。(B)勧告：検査網支援。非流行国においてはワクチン由来ポリオ患者発生と輸入例発生に対応すること。検査の遅れを短縮すること。ワクチン由来か野生株かの型内鑑別検査法の改良。検査精度を 3 年ごとにチェックする。標準ウイルス、培養細胞、標準試薬などの提供。

10 月 7 日~13 日届出。コレラ：ベニン、カメルーン、ギニア、ギニアビサウ、モザンビーク、セネガル、ベルギー（輸入例）、ポーランド（輸入例）





愛知県感染症情報

2005年第1週～第42週(平成17年1月3日～平成17年10月23日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	158	80,237	2,757	7,047	31,213	10,588	2,495	920	5,077	56	31	12,389	22	8,307	23	1,373	11	7	208	0	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	126	63,772	2,102	4,826	22,350	8,515	2,062	730	3,913	44	16	9,733	14	6,576	16	1,064	11	7	208	0	1
名古屋 名古屋市	70	70	11	14	1	32	16,465	655	2,221	8,863	2,073	433	190	1,164	12	15	2,656	8	1,731	7	309					
尾張東部 瀬戸	9	9	2	3	1	15	4,171	504	604	1,178	424	63	35	214	2	2	672	3	276		38			57		
海部 津島	7	7	2	2	1		3,211	24	128	1,595	335	80	84	144	1	1	542		609		41	1	1	14		
尾張中部 師勝	4	4	1	1			2,064	2	137	707	228	34	22	89		1	404		175	1	67					
尾張西部 一宮	16	12	3	4	1	4	4,491	169	334	1,943	521	267	35	343	2	1	637		634	1	103	1				
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	20	7,535	375	416	1,374	614	153	32	388	11	6	904	1	294		51	2	2		1
	江南	6	6	1	2		9	2,731	179	519	1,780	689	106	43	397	1		778	2	536		52				
知多半島	半田	6	6	1	2	1	7	2,950	167	190	1,031	387	210	35	186	1		147	1	292	3	64			4	
	知多	7	7	2	2		8	3,766	133	426	1,130	421	66	29	278		1	459	1	425	1	27				
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	8	6,131	58	332	552	674	142	54	513	5		969		664	4	70				
	衣浦東部	13	13	2	4	1	7	9,033	79	436	1,849	1,090	143	137	369	3	1	1,013	3	632		191			13	
	西尾	5	5	1	2	1	12	1,893	20	210	754	441	160	41	175			501		221		27			1	
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	12	4,651	44	428	4,819	798	132	65	341	10	2	1,149	1	532		114	3	3	90	
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	3	6,866	271	423	2,050	542	196	55	281	4		703		264	2	142	4		23	
	豊川	9	8	1	2	1	21	3,616	72	232	1,557	1,300	303	62	190	4	1	830	2	1,013	4	77		1	6	
東三河北部	新城	2	2			1		663	5	11	31	51	7	1	5			25		9						



愛知県感染症情報

2005年第1週～第42週(平成17年1月3日～平成17年10月23日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん	
計	126	63,772	2,102	4,826	22,350	8,515	2,062	730	3,913	44	16	9,733	14	6,576	16	1,064	11	7	208	0	1	
～6ヶ月	55	319	16	11	347	220	20	2	268	13	1	108		7		8						
～12ヶ月	27	959	90	29	1,499	500	127	40	2,139	8		715	2	30		7						
0歳																	4		4			
1歳	21	3,279	341	144	3,271	1,445	490	44	1,388	4	2	2,149	3	300		36		1	28			
2歳	12	3,675	272	263	2,320	1,410	380	37	1,033	4	3	1,693	2	597	1	35			31			
3歳		4,334	409	547	2,050	1,774	390	80	13	2	1	1,712	1	1,071	1	49	1		27			
4歳	3	5,537	364	866	1,821	1,463	267	107		3	1	1,300	1	1,400		34			22			
5歳	3	5,474	249	967	1,580	847	187	119		1	3	934	3	1,161	1	26						
6歳	3	5,343	142	686	1,151	375	77	89		2		488	1	786	1	24						
7歳	2	4,021	67	431	843	190	36	67			2	255		425		13						
8歳		3,659	36	253	718	93	26	53		1		138		257	1	16						
9歳		3,188	33	182	563	50	17	40				89	1	154		9						
5歳～9歳																			50			
10歳～14歳		5,827	45	249	1,417	96	14	41	2	1	1	102		236		31			19			
15歳～19歳		993	4	24	498	11		1				9		23	1	26			2			
20歳～			34	174	4,272	41	31	10		5	2	41		129			6					
20歳～29歳		4,271													3	173		1	5			
30歳～39歳		6,135													2	297		2	6			1
40歳～49歳		2,631													2	96		2	3			
50歳～59歳		1,857													3	79		1	2			
60歳～69歳		1,149														59			5			
70歳～																46						
70歳～79歳		684																	3			
80歳以上		437																	1			